



共同通信



2006年10月6日 122号(332号)

日本基督教団 西宮共同教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町 10-22
0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email:koudou@gamma.ocn.ne.jp
<http://www.koudou.jp/> 振替 01170-3-4901
ホームページアドレスが新しくなりました。

時代にふり回されるのではない 自分の人生を語ってほしい、
あの時 心を躍らせて生きた 自分の人生を語ってほしい、
後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、
笑い 泣き 歯ぎしりをした 自分の人生を語ってほしい、
今日 こんな決意をしたという 自分の人生を語ってほしい

To tell the story 22
「週報を読むたびに」

年号について。キリスト者たちの便りに、平成を記した文書が多いのは、なぜだろうか？私は、全て西暦を記す。天皇が代わるたびに名称が変わるのは、天皇制支持と解釈するようだ。小学生時代に神武天皇から昭和天皇までの名前を強制的に覚えさせられた記憶がある。天皇一家族の名前を呼ぶのに、なぜ、サマ、様、親王と呼ばなければならないのか理解に苦しむ。東京に在住していた時、品川の池田山の坂を上り細道の途中に、現、皇后の正田美智子邸があった。一度だけ彼女に出逢ったことがある。当時、彼女は聖心女子大生だった。婚約が進む前、パトカーなどが数台停車していたので、50mほど離れた

交番の巡査に尋ねると「あの正田家の娘と、皇太子が婚約するらしいぞ、だれにも言うなよ」と聞いたことがある。本当だった。驚いた。近くには、インドネシアの日本大使館があった。

第二次大戦中(小学生)シンガポールが陥落しチョウチン行列があり、皇太子(現天皇)と同じ年(1933年)生まれの小学生に祝いの紅白のモチが配られた。が、一つ年長の私たちにはなかった。くやしかった。

昭和天皇が、松山の行幸とやらで来た。人間天皇ということで、私も見に行った。人出の後方で、上半身裸で見えていたら、一人の男が「戦前だったらお前は不敬罪で逮捕されたゾ」と言われたことがある。

教会の青年会が、松山沖の中島でキャンプをして帰ったところ、牧師から「牧師に相談しないで勝手に行動しないでください。」と叱られたことがある。青年会が、土曜日に街角でチョウチン片手に路傍伝道をしたもんだ。今の教会青年部は、そんな活動をしているのだろうか？

月に一回、松山三越裏にあった“天平”という名の天麩羅屋によく通ったものだ。ボスは、醤油問屋の息子、U兄で支払いは全部彼だった。そして、月一回は、彼の家の上階で聖書研究をしたもんだ。塚本虎二、関根正雄の聖書注解書をテキストとして。

学校へ通学する伊予鉄電車の中で「新約聖書」のポケット版を赤鉛筆で線を引き、各頁が真赤になっていた。

青年会の一人、M兄が日本・ドイツ(当時は西ドイツ)交換留学生で一年間留学して帰国した。彼が説教するたびに、ドイツ語の単語がとび出してくる。私からみればエリート意識丸出しで、とても嫌だった。彼の妹は私と同級生で、松山でBAに勤めていた。

月に一回は、松山の古町にある「コイノニア幼稚園」でクラシック・レコード(教会音楽)会というのがあり、よく通ったものだったのだ。それが終わってから天麩羅の“天平”に通ったのだ。今、ふと、あのコイノニアは、どうなっているのだろうかと思ひ出す。

いろいろな牧師と名のつく人々が

天に召された。

私が在籍していた日本基督教団・隅田川伝道所(当時、私は書記)もなくなり、私の在籍名簿も抹消されている。しかし、牧師は、故郷に墓地がある。一度、教団本部の担当者に調査を依頼したいと思うと共に、自分で教団(教会)を確認してみたいと思っている。

ある共産党員の孫。彼に召集令状が来たので彼は拒否して、東京の山谷人となった。偽名を使って。彼のドヤで通夜があり、遺品を調べていると、彼の本名が判明した。出身地は日常喋っていた県とは全く逆の方向だった。よくぞ死に至るまで逃亡したものだと感じたことがある。

隠れキリシタン。葬儀の時、一般の葬式を装い送り出し、お役人の目をごまかして、あとで再度、葬儀を行うと聞いたことがある。位牌を返すと十字架が出ると。隠れキリシタン部落を一度、旅してみたい。そして長崎にあるカトリック作家の遠藤周作文学館も。

イエスについて。イエスは果たして、どこで勉強したのだろうか？私の課題である。教会か、荒野か、どこだろうか？と聖書を読む毎にそこにつきあたる。明確に把握すれば安心するのだが。

ある人は言った、日曜日の午前中から12時までの間が、一番人を差別する時間である。と、エリート人の時間だと。ときどき10時45分ご

るになると、西宮公同教会の鐘が今ごろ鳴っているだろうと思う。私の住んでいる長岡京の字の池の向こう側に、長岡カトリック幼稚園がある。毎朝、8時すぎになると、登園した子どもたちが、マリア像に向かって「イエス様、マリア様、オハヨウゴザイマス」そして、2時すぎには、「イエス様、マリア様、イマカエリマス」と唱えて帰る（幼子のようになりなさい。聖書）。

牧師と信者、あるいは信徒について。なぜ信徒と牧師と名を区別するのであろうかといつも思う。そして、

一人のキリスト者として自分の信仰告白を証言できる場をなぜ与えないのかと疑問に思うこともある。教会でも、文書でもよいと思うのだが。

もっと信徒として、信者として立場をはっきりと求めるべきではないかと思う。牧師もいつまでも自分の座を温かくするべきではないと思う。私の経験からである。愛しているなら、信じ合うなら尚更のことである。一度、傷つき合えばわかるのではないだろうか。

（田頭 道登）

日本基督教団西宮公同教会集会案内		
早天祈祷会	毎月1日午前6時30分から	於：西宮公同教会集会室
教会学校	毎週日曜日午前9時から	於：西宮公同教会礼拝堂
聖日礼拝	毎週日曜日午前10時45分から	於：西宮公同教会礼拝堂
聖書研究祈祷会	毎月第1・3水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
読書会	毎月第2・4水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
ゆっくり聖書を讀む会	毎月第3火曜日午前10時から	於：西宮公同教会集会室

多くの宗教は、「ただ生きる」ということが何かの欠如なのではなくて、それこそがひとつの奇蹟的ともいえる達成だと教えます。欲望とか煩惱とか、「ただ生きる」こと以上のことを願うから、迷いや悩みや苦しみが生まれるのだと教えます。でも「ただ生きる」ことすら他人とのあいだでしか、あるいはいろいろと複雑な組織のなかでしか可能とはならない以上、考えることをやめて「ただ生きよう」としても、それはほとんど不可能なことです。だからどんなふうに考えたらいいか、どういうふうに考え方を変えたらいいかを、いつも考えてしまうのです。(鷲田清一)

ラザロの物語はヨハネによる福音書 11 章 1 節からはじまって 44 節まで続きます。「・・・病気であったのは、彼女の兄弟ラザロであった。姉妹たちは人をイエスのもとにつかわして、『主よ、ただ今、あなたの愛しておられる者が病気をしています』(11 章 2, 3 節)と言わせた。だから、“来て下さい”とお願いしたのですが、イエスが着いた時には「・・・ラザロはすでに 4 日間も墓の中におかれて」いました(17 節)。そうして死んだラザロのことがヨハネによる福音書には、詳しく書かれています。「・・・死んだラザロの姉妹マルタが言った『主よ、もう臭くなっております。4 日もたっていますから』(11 章 39 節)。「・・・死人は手足を布でまかれ、顔も顔おおいで包まれたまま、出てきた(11 章 44 節)」というラザロの死の“事実”とは別に、“人の死”をめぐる議論が並行して展開されます。人は、死の事実をくつがえすことができないのはもちろ

ん、それを事実として受けとめるのも難しかったりします。「・・・大ぜいのユダヤ人が、その兄弟のことで、マルタとマリヤとを慰めようとしてきていた」(11 章 19 節)。「・・・『主よ、もしあなたがここにいて下さったなら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょう』。イエスは、彼女が泣き、また彼女と一緒にきたユダヤ人たちも泣いているのを・・・」(11 章 32, 33 節)“慰める”ことでも“泣く”ことでも死の事実が変えられないとしても、人はそうすることによって、死の事実の直中を生きてきました。マルタは、手遅れでやってきたイエスに「・・・主よ、あなたがここにいて下さったなら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょう」と訴えます。そんな訴えに「あなたの兄弟はよみがえるであろう」と応えます。4 日も前に死んでしまった人が、生き返るとは考えていないマルタは「終わりの日のよみがえりの時よみがえることは、存じています」と、死の

事実を肯定すると同時に、“生き返る”のではない、どちらかと言えば死の彼方にある“よみがえり”のことを話し始めます。

物語の展開としてはラザロの“よみがえり”が主題であったはずなのに、ここでいきなり「・・・わたしは、よみがえりであり、命である」と、イエスの自分の“よみがえり”のことに主題が置き換えられます。たぶん、ヨハネによる福音書の本来の主題が、十字架で処刑されることで終わってしまったイエスのことを、その後を生きる人たちが自分の今とどう結びつけるかであったように思えます。だから、ラザロのことが突然“わたしは、よみがえりであり、命である”とイエスのことになったとしても、あり得ることです。

で、何が言いたいのか。

「・・・わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる」「生きていてわたしを信じる者は、いつまでも死なない」(11章25, 26節)などのことは、生きていること死ぬことの“事実”を、全く見ていない訳ではありません。生と死の事実に立って格闘している人の言葉ではあるのです。むしろ、そのことの意味を徹底して自らに問うことで、そんな問いに答えようともしています。生きることや死ぬことの持っている、圧倒的な事

実は人を振り回してしまうだけの力を持っています。死んだラザロのことでのマルタやマリヤの嘆き、大ぜいのユダヤ人が死んだラザロのことでマルタとマリヤを慰めようと集まってきたりするの、そうするよりなかったからです。ヨハネによる福音書は、そんな圧倒的な事実としての、生きることと死ぬことを、必ずしもそうではないこととして示そうとします。「わたしを信じる者は・・・たとえ死んでも生きる」「わたしを信じる者は・・・いつまでも死なない」・・・「あなたはこれを信じるか」と。“信じる”ということが、言葉のあやぐらいでしかないとすればこうして語られることは、ただのたわごとにしすぎません。たとえば、よみがえることを・・・死んだ者が生き返る事実で示されるなら、“信じる”などということにならなくても済みます。しかし、ここで問題になっているのは、そんなことではないはずで、生きていること、そして死んでしまうことの圧倒的な事実の前に、へこたれてしまうのではない、それらとの向かい合い方が問われているらしいのです。そんな時に、イエスにおいて起こったと信じられていることが、生きること、そして死んでしまうことの圧倒的な事実を、少なからず相対化しはしないかと。(菅澤 邦明)

ア コ ー ク ロ ー 通 信 (1 0 3)

前回話題にした11月の沖縄県知事選挙、すったもんだいろいろあり、10月を迎えて、ようやく野党統一候補擁立までこぎつけました。これで、自公候補との実質的な一騎打ちです。沖縄は、とにもかくにも米軍基地をどうするか、基地賛成なのか、反対なのか、その世論調査的役割が県知事選挙なのです。もちろん経済問題や福祉、環境も課題なのですが、それらもまた米軍基地と密接な関係があるのですから、この時代、全国でも珍しく一騎打ちになるのです。1972年、沖縄が本土復帰して以来、賛成側、反対側が県知事を分けて合ってきました。この8年間2期は基地賛成派が知事でした。その前8年間は反対側が知事でした。「米軍再編」、沖縄の基地強化の中で県民がどういう選択をするか、安倍新政権の動向とあいまって注目されているところです。もうすでに沖縄中、両陣営の違法ポスターが電柱に貼られているのです。後藤は、もちろん、特定候補を応援していますが、客観的に見れば五分といったところです。

市町村議員選挙がありました。後藤が応援していた何人かは当選しましたが、何人かは落選しました。世の中には1票差で落ちる人がいて笑っていたのですが、名護市議選のある候補は、素朴な田舎の青年で、ひたすらジュゴン保護を訴えていました。

後藤も何度か応援に行きました。文字通り1票差の次点で落選しました。総じて基地反対派にとっては厳しい選挙でした。

加えて、この知事候補選定にあたって、革新側にいいよのない亀裂が生まれました。対する自公候補、脇の甘いところがあってスキャンダルまみれです。それやこれや含めて現時点、五分です。野党統一といえば聞こえはいいのですが、新左翼(古い)、共産党から本籍保守のグループまでいますから、発表する政策も曖昧になりがちです。基地反対はいいのですが、想像しているプロセスには幅があるのです。

後藤、このところ体調がよくありません。決定的な病気でもなく、常用している薬もないのですが、体のあちこちガタがきています。それを見て取った沖縄の某有名女性写真家が葬式用の写真を撮ってくれました。

ちょっとかぶる話題ですが、9月、時間があまりなく映画がみられず7本どまりでした。その中では「花田少年史」と「フラガール」をおもしろく見ました。実は後藤の父親は大昔「採鉱学科」というところを出ているのです。戦争中「石炭増産技術者養成」みたいな学校をでているのです。その当時のできごとは、それはその物

語があるのですが、戦後も一時期、東北の鉱山に勤めていたことがあったのです。だから「フラガール」に出てくる落盤事故や閉山の話題は、もしかすると後藤の身にも起こったかもしれないのです。23歳まで仙台にいた後藤は、常磐炭鉱に「ハワイアンセンター」ができていたことは知っていましたが、そういうところに行く年齢ではありませんでしたし、これも映画の中に出てくるせりふですが、「東北でハワイはねえべ」とも思っていました。

沖縄の知的障がい者通所授産施設「愛の園」では、肝臓にいいといわれている「春ウコン」をつくってしまし

た。100グラム1000円、ちょっと苦いのですが特に酒好きの方には好評です。お問い合わせは「西宮公会教会」までお願いします。で、「自立支援法」には負けないぞう、ということで、40人の園生と10人の保護者と12人の職員とで、ディズニーランドに旅行することにしました。今のメンバーで県外に旅行するのは最後になるかもしれません。でも、みんな楽しんでほしいと思います。

論文？まだ全然です。さすがに危なくなってきました。

(沖縄・与那原 愛の園 後藤 聡)

深まっていく秋を満喫しています

もう10月になりました。耳を澄ませるといろんなところから聴こえてくるのは虫たちの声です。あれマツムシが鳴いている～チンチロチンチロチンチロリン～なんて唄も思わず口ずさんでしまいます。秋だなあ～なんて感じ始めると早いもので、日中は日差しが強かったりしますが、朝晩はもう寒いくらいです。あっという間に秋がどんどん深まっていくようですね。そんな秋、この時期ならでを一杯に楽しんでいるみんなです。いろんなところへ出かけた

り、いろんな美味しいものを味わったり、秋を満喫しています。

幼稚園の畑では彼岸花が満開を迎え、その色鮮やかな赤にみんなで感激しました。800本という数はほんとは見事！！です。そんな彼岸花、いろんなところでも見かけることができます。よく歩く津門川沿いのマンションの脇にも、公園のすみにも咲いていました。ひっそりだけど、強く咲くその姿に子ども達もすぐに気づき、見つけたことが嬉しくて教えあっています。

秋はそんな風に嬉しくなることがいっぱいあります。先日さんぽ・らったぐみはどんぐり拾いにでかけました。少し前に出かけた北山でも見つけたのは大きなクヌギです。大きいだけに落ちてくる音もゴロンゴロンって感じ そんなクヌギにまた出逢うことができました。でかけたのは高座町にある公園です。着くなり面白いくらいに落ちてるどんぐり、拾いたい放題！！です。みんなのズボンのポケットはあっという間にパンパンになっていました。パンパンになった、デコボコしたポケット、そんな状態で走り出すと、どんぐりも一緒にポケットからコロコロ走り出す！！なもんで、今度はポケットを押さえて走る！！その姿の可愛いこといったら～ それにどんぐりの重みでズボンがずり落ちそうなんていっても過言じゃないくらい。そして幼稚園に帰ると早速、園長先生がどんぐりゴマを作って下さいました。ウィーン！！とドリルで穴を開け、竹串を刺して出来上がり そのコマを廻すのももったいない～って様子で大切そうにポケットにしまう子もいれば、クルクル廻るのに感激してもっと近くで見たくって、寝転がって鼻をくっつけるようにして見守る子も。そんなコマに 更に顔を描いてもらったり～と楽しみ方もいろいろです。1つのどんぐりでそんな風にいろいろ楽しめちゃうんです。

毎年秋、9月の終わりに幼稚園で行われることの1つが、みんなのお

じいちゃん・おばあちゃんをお招きしての「おはぎパーティー」です。これもみんながすごく楽しみにしていることの1つ 今年も200名を超える方々が来て下さいました。あんなに楽しみにしていたはずなのに、いざ、おじいちゃん・おばあちゃんが来てくれると、もう、緊張しちゃって～です。いつもは賑やか過ぎるくらいのもんなでも・・・シーン・・・そんなに緊張しなくても・・・(笑)ってぐらい。けどおはぎはしっかりおかわりなんて姿もあったりして可笑しいんです。少しの間でしたが、みんなが日ごろ楽しんでいるわらべ歌と一緒に遊ぶこともできて、みんなの表情もいつの間にかとびきりの笑顔になっていました。いろいろな笑顔に溢れた1日になりました。みんな以上に私も楽しませていただいて、近くから、又、遠くからお越しいただいたおじいちゃん・おばあちゃんには感謝の気持ちでいっぱいです。それに毎年たくさんのおはぎを準備してくださるお母様方にも改めて感謝いたします。

秋は、まだまだ楽しいことが続きます。次は・・・11/3の運動会です。またたくさんの方々とご一緒できれば嬉しいです。おじいちゃん・おばあちゃんとも再会 ですね。お待ちしております。そして、段々肌寒くなってまいりました、いろんなところで過ごされる皆さんの健康をお祈りしています。

(石堂 寛子)

教会学校から

《9月の活動報告》

- 9月 3日(日) 電動歯ブラシを使って歯ブラシカーレースをしたよ！
9月 10日(日) キャンプのビデオを礼拝堂の大スクリーンで鑑賞しました。
9月 17日(日) 敬老の日にちなんだ“敬老の日なぞなぞ大会”でした。
9月 24日(日) “ゴムロケット”を飛ばして遊びました。マンションビルの何階まで飛ばせるか競争したよ！一番高く飛んだロケットは、屋上まで行きました。

《10月の活動予定》

- 10月 1日(日) 作って食べる！“ちらし寿司”。
但馬の田中さんの作ったお米が届きました。
10月 8日(日) 切り紙で遊ぶ！どんな切り紙をするのかな？
10月 15日(日) 六甲登山！！ひさしぶりにみんなで登山を楽しもう！
10月 22日(日) 幼稚園の子どもたちと遊ぶよ。
10月 29日(日) 風船スライムを作ります。
10月 31日(日) 谷村先生の指導でクリスマスキャンドルを作ろう！

たのしい学習塾

小学校1年生～4年生対象（教会学校登録者に限る）

日時 …毎週土曜日午後3～5時

場所 …西宮公会堂 1階集会室（日によって異なります）

参加費 …450円（月/約4回、教材費含む）

小学校5年生以上（教会学校登録者に限る）

日時 …毎週土曜日午後7～9時

場所 …西宮公会堂 1階集会室

参加費 …450円（月/約4回、教材費含む）

“学ぶことが嫌いにならない”“学ぶことが楽しくなる”学習塾です。根気よく付き合ってくれる愉快的なスタッフが揃っています！申し込みを希望される方は事務所までお申し出下さい。子どもたちにいい時間と場とつながりを用意できるようにがんばっています。

大切な贈り物・津門川 50

“ つとがわ ”

『 津門川～津門川～西北流れる～
』そう、幼稚園の前をキラキラと流
れる『つとがわ』。

恥ずかしながら初めて『津門川』とい
う漢字を目にした時、何と読むのか
分からず...『つもんがわ?』なんて心
の中で読んでいた私です。ごめんな
さい!

ぽっぽの『始めの一步』で、津門川を
元気いっぱい泳ぐ年長さんのこい
のぼりに感激! に始まり...初めての
お散歩で津門川沿いを歩き、大きな
鯉に大興奮した4月 雨の多かった
6、7月には津門川から聞こえるカ
エルの大合唱を楽しみました 8月
には太陽の光をいっぱい浴びてキ
ラキラと輝く、そんな姿を目にしま
した*...そして9月の今は、津門川
の上を飛ぶたくさんのトンボたちが
大好き! な私です。津門川沿いを子
どもたちとお散歩しながら、『 ト
ンボ～トンボ～このゆびとまれ～ト
ンボ～トンボ～目を回せ～ 』と歌っ
て楽しんでいる今日この頃。いつか
本当にとまる日を夢んでいます
津門川には本当にたくさんの生き物
がいて、川の横を歩くと聞こえる、川
のせせらぎがとっても素敵。そんな

中でも私の1番のお気に入り...カ
モ 明石城の池(?)で泳いでいるたく
さんのカモ(ワイワイ・ガヤガヤして
いるカモたちなんです!)は見たこと
のある私ですが、川であんな風に仲
良く泳いでいるカモを見たのは初め
てで...。カモたちの様子を見てい
ると、その周りだけ別世界のような、
ゆったりとした、ほのぼのとした感
じで、思わず笑みがこぼれてしま
います。そんなカモたちを見て幸せを
感じたりもしています。

津門川に出会ってまだ半年...の私で
すが、津門川が大好きになってしま
いました!そこにはいつも何か変化
があり、楽しみがある、そんな津門川
...これからも楽しみで仕方がありま
せん!

(藤原 紘子)

第7回・津門川塾

2006年10月14日(土)

午前10時～12時

於:集会室、参加費:100円

「津門川右岸道路を遊歩道化する」
“夢”の実現のために」

2006 年 10 月 あんなこと こんなこと...

- 1 0月 01(日) 早天祈祷会
- 1 0月 09(月・祝) 教会学校・六甲登山
- 1 0月 12(木) 午後 6時~、ソウルフラワー・モノノケサミット
ライブ実行委員会、於：集会室。
- 1 0月 18(水) 午前 1 0時~、教会チャペルホール(入場無料)
「サーシャ、アコーディオンコンサート」
主催：にしきた街舞台実行委員会
協力：西宮共同幼稚園おかあさんぐまの会
- 1 0月 2 0日(土) 午後 3時~ (2時 3 0分開演)
ソウルフラワー・モノノケサミットライブ

にしきた商店街...

- ・ 1 0月 08 日(月) 午後 1 2時 3 0分~、津門川掃除
- ・ 1 0月 2 2日(日) 午後 1時~ 3時、
兵庫県立芸術文化センター 1周年記念西北音楽祭
にしきた L a L a ヌ ヌ ス テ ィ バ ル

アートガレーヂ

- ・ 野菜市：1 0月 3日(火)、1 0日(火)

関西神学塾

- ・ 1 0月 06(金) 桑原重夫先生「使徒行伝を読んでみよう」
- ・ 1 0月 1 3日(金) 勝村弘也先生「死海文書を読む」
- ・ 1 0月 2 0日(金) 田川建三先生「マルコ福音書註解」
- ・ 1 0月 3 0日(火) 岩井健作先生「岩井健作の宣教学」

まいの勝手に何でも案内

すっかり秋ですねー。秋は可愛い洋服やらブーツやらいっぱい出るし、栗やらカボチャやらの美味しいお菓子もいっぱい出るし、お財布やら体型やら確実に問題が増える季節です。でも一番落ち着く季節でもあって、キンモクセイの香りがするとすごく嬉しくなります。ロイヤルミルクティーを片手に、ジェーン・オースティンの小説でも読もうかという気分になります。まあ文学部ですから。何ていうか、この連載で最近余りにも文学部生離れしてる気がしたので(事務所に行ったら「怪しい女子大生」って言われましたからね!)今回は若干知的な雰囲気を漂わせた紹介をしたいと思います。

そうして選ばれたテーマは「ギリシア神話」。勿論「ギリシア神話」と一口に言っても、ハッキリ言えるものではないのですが、一般にはホメロスの書いた『イーリアス』『オデュッセイア』を元にしたものをそう呼びます。中でもトロイア戦争の件は有名で、数年前にも映画化されてましたよね?『トロイ』。私観ておりませんが、多分気に入らないと思われま。原作愛が強すぎて。というわけでギリシア神話ですよ。多分星座とか花にまつわる話としてご存知の方も多いと思いますが、一応ざっと説明を。まず、ギリシア神話において、神様は沢山います。オリンポス12神

と呼ばれる12人が中心ですが、本当は他にもいます。そしてとても人間的です。一番力のある神がゼウスという雷の神なんですが、一番強いはずのくせして、妻のヘラ(家庭の女神)に怒られっぱなしです。ていうか浮気しすぎですこの方。人間でちょっと美しい女の子見つけたら、すぐ連れ去ったり何なりしますからね。で、ヘラにバレて、何の罪もない相手の女の子やらその子どもやらが痛い目見る、と。ギリシア神話ってそんな話ばかりです。ゼウスが神様らしい力を使うのは、女の子さらうために姿変えるときぐらいです。ヘラとアテネ(知の女神)とアフロディテ(愛と美の女神)の三人に、誰が一番きれいかと詰め寄られたときも、恨みを買うのを面倒がって逃げますからね。これがトロイア戦争の原因なんですから情けない神様です。あ、トロイア戦争というのはですね、それで判定を投げられたトロイアの王子(その時は自分が王子と知らなかったのですが)パリスがアフロディテを選び、アフロディテがそのお礼に一番美しい女性を彼にプレゼントするのですが、その美しい女性ヘレネはギリシアの王妃であり、そうしてギリシアとトロイアの間起こった長い長い戦争のことです。ずっと想像上の話だと思われていたのですが、シュリーマンというドイ

ツの実業家が19世紀にトロイの遺跡を発掘し、本当だということが発覚しました。シュリーマンはすごい人なので、機会があれば是非「古代への情熱～夢を掘り当てた人～」を読んでみてください。

で、トロイア戦争の間も、神様は適当にどっちかの味方をして、およそ神様っぽくないです。ていうか、ギリシア側の英雄のアキレウス（カッコいいです、とても。アレクサンドロス大王が憧れていたというのですから相当です。）とか、戦ってる人間の中にも半分神様みたいなのが混じってるんで、もう神様なんだか人間なんだか、て感じです。でもおもしろいのは確実。元の『イーリアス』を読むのは大変ですが、色んな簡単な訳も出てるので、気軽に手にとってみてください。私の大好きな児童文学作家、ローズマリー＝サトクリフも『トロイアの黒い船団』『オデュッセウスの長い航海』という2つを書いています。あ、『オデュッセイア』というのは、トロイア戦争に参加したギリシアのオデュッセウスが、故郷のイタケ島に帰りつくまでの長い航海を書いたものなので、サトクリフの『オデュッセウスの長い航海』はこちらに相当します。こちらもおもしろいので是非。今回はカットについて少し。彼女はカッサンドラと言いまして、トロイアの王女であり、太陽神アポロンに仕える巫女であり予言者でした。が、

アポロンを裏切った罰として、「彼女の予言は常に正しい。しかし誰にも信じてもらえない」という悲劇的な運命を負わされます。パリスを最初に見たとき、トロイア戦争を予言したのに信じられず、戦争後は捕虜としてギリシアの総大将アガ멤ノンの館へ連れて行かれます。先を見える目を持つ悲劇は、古代ギリシア悲劇作家、アイスキュロスの興味を惹いたらしく、彼は作品『アガ멤ノン』で彼女に大切な役割を負わせます。よく「未来が分かればいい」と思う私ですが、その度に、正しく未来を読みながら誰にも信じられない彼女を思い出すのです。

（高橋 舞）

今月のあ・そ・び

3枚羽根と4枚羽根のプラとんぼに取り組んでいます

子どもたちのおまつりである“公同まつり”の準備が進められています。公同まつりでは“竹とんぼ”の店を出す予定です。並べるのは、“プラとんぼ”と“スーパースティックとんぼ”の予定です。体調不良で保育所を休むことになった“孫”の世話をすることになり、一緒に遊んだりしながらプラとんぼの切り抜きをしていました。久しぶりにのんびりそんなことをして、3枚羽根・4枚羽根のプラとんぼも作ってみました。自分ではまだ竹とんぼを飛ばせない“孫”も、種類が増えたのには大喜びでした。3枚羽根と4枚羽根のプラとんぼの安定して飛ぶ様子に、“新作”登場の予感がしないではありませんでした。で、作図し、板で型を作り、それをもとにプラバンを切り抜き、屋外で飛ばしてみると、よく飛びました。ところが、2度、3度と飛ばすうちに、だんだん飛ばなくなってしまうのです。で、調べてみると、軸竹ぐしがゆるんでいるのが解りました。竹とんぼがよく飛ぶ為には、いくつかの条件があります。左右の羽根のバランス(長さ、重さ、ひねった時の角度など)、その羽根と軸がしっかり固定されていることなどです。2枚羽根のプラとんぼは、簡単にできて

しまう上に、上記の竹とんぼの条件を完全に満たします。切り抜いたプラとんぼの羽根に、竹ぐしを差し込むだけで、ほぼ完全に固定されてしまうところがすぐれものなのです。プラスチックに穴を空けた時、それが少し元に戻ろうとする力で、軸が強く固定されます。ところが、羽根が3枚ないし4枚になると、軸の部分にかかる負荷が大きくなり、軸を固定する力が負けてしまいます。

“竹とんぼ”は、どんな素材でも作れないことはありません。しかし、紙とんぼなどが結局モノにならないのは、薄い紙に差し込んだ軸の固定が難しいからです。接着剤を使ったとしても、羽根が回転する時の負荷には耐えられません。

のんびり“孫”と遊んでいて、せっかく思いついた3枚羽根と4枚羽根のプラとんぼですが、今のところまだ完成には至っていません。

(菅澤 邦明)

私が出会ったいろいろな人たち

西宮の地で初めて生活を始め、不安な気持ちが大きくあったとき、若者の存在がとても大きな支えになったことを覚えています。兵庫県にある教会同士の交わりというのは、なかなか持つ機会が少なく、総会や会議など一年に何回か集まる機会がありますが、ゆっくり話をしたりする時間はなかなかありません。それでも、若者たちというのは若者たち同士で集まるのが好きで、教会や兵庫教区単位で集まる機会と平行して若者同士で集まる機会をそれぞれで持っていました。

色んな機会に若者たちが集まったり、時間のあるときに食事をしたり、年に数回でもそのような時間が持てるということは大きな励ましとなります。そして何よりも、西宮共同教会に集まるたくさんの若者の存在は、毎日の生活の中で大きな励まし、そして大きな希望を与えられる機会になりました。

「近くの大学の神学部に通っているから・・・」、「共同幼稚園出身だから恩返しをしたくて・・・」、「週に何日が空いてる日があるから・・・」などなど、きっかけはとても簡単な理由でも、それぞれがひよんな理由から教会や幼稚園に若者がたくさん集

まっています。幼稚園の先生方が若い方が多いということもあって、みんなが集まると熱気があふれます。

教会の行事、教会学校の行事、そして幼稚園の行事などでみんなが協力し合う機会にはより一層、彼らの元気のよさがすがすがしい風をふかせてくれたりするのです。もちろん、それらの働きを見守り、支えて、若者の働きを後押ししてくださる方々があっての話ですが・・・。

9月の終わりに、「青年の会（名称は検討中・・・）」をはじめて持ちました。きっかけは、「教会にたくさん青年が集まっているのだから、いい機会にみんなが集まる時を持ってみては？」という声などがあったことから、これからの教会の歩みなどを考えている時期に、一度みんなで交わりのときを持ってみよう！ということになりました。色んな事情がある中で20名が集まりました。

これからどんなことが若者たちの中で実現できるのか、またどんな風を教会や幼稚園に新たに吹かすことができるのか、まだまだ模索中というかはじまったばかりですが、ゆっくりみんな考えてゆけたらいいなあと思っています。

（田中 知恵）

つとがわ
編集後記

高齢で入院中の方を訪ねることがあります。あれこれの“不安”について、短い時間ですが聞かせていただきます。身体の動きがままならないものの、考え込む時間だけはたっぷりあって生き続けることの難しさを、自分のこととしても耳を傾けさせてもらっています。

高齢で、少し前のできごとを記憶することが難しくなった方を介護施設を訪ねることがあります。少し前のできごとを記憶することが難しくなっている自分のことに、少しばかり気付いていて、そのことが不安であるらしいことも、少なからず伝わってきます。で、そのことではさり気なく聞き流し、少しの時間、とりとめのない会話をしながら記憶も勝負の勘もはっきりしている囲碁をして過ごします。

(K)

めっきり秋ですね～。肌寒く、なんだか寂しい感じがする秋は少し苦手です。でもせっかくの秋の夜長 楽しみたいと思っているのにいつの間にか気付くと朝になっています。また寝ちゃったあ～なんてしばしば。虫の声に耳を傾け、心落ち着かせて過ごす時間を冬までに過ごしたいと思ったりしています。

(I)

先日、子どもたちと北山緑化植物園へ行って来ました。ドングリやクリの実がたくさん落ちていて、みんな集めるのに忙しく～疲れも忘れて～という感じで、よく歩いた1日でした。次の日は1人もお休みすることなく、みんな元気一杯で、そんなお友だちのパワーにビックリ！！前日でパワーを付けたのか、「ぼうけんごやのぼれるようになった！」なんて報告してくれた子もいました。これ

からの毎日も色々な所へ出かけて冒険を楽しんで行けたらいいな～

(Y)

先日、この秋初のサンマを食べました。サンマの肝の部分、以前までは苦くて、しぶしぶ食べていたのですが・・・ところが！とってもおいしく感じられました。母に「大人の味がわかってきたんじゃないの～」なんて言われました。食欲の秋！秋はサツマイモにクリに私の大好きなものばかりで、わくわくしちゃいます！

(N)

秋は1番好きな季節です。キンモクセイが大好きなのですが、先日お出かけ先で今年初のキンモクセイの香りがしました。家の近所のキンモクセイはまだ咲いていないようですがこれからが楽しみです。

(Y2)

老齢厚生年金、厚生年金基金、退職共済年金、共済加給年金～。相棒が対象年齢になったこともあり、数年前からいろんなお知らせと手続きの指示が届く。二人共仕事を1ヵ所に腰を落ち着いたわけではないこともあって、それでいろいろ手続きが増える。今回の加給年金の申請に当たっては、年金証書や年金番号通知書のコピーに始まり、謄本、住民票、所得証明と送付するものはそれで封筒がパンパンになる位。現役だからまだもらえるわけではないけれど、もらえる頃になってもあんな煩雑なことできるのかと不安にもなるほどの書類の準備。そして戸籍は何と富山県氷見市。ここ数年で何回謄本請求したとか。なんであんなところに戸籍がある？

(J)